

第 1 回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	意見の理由	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
1	事前意見	第1章			3	4行目	この「千葉市基本計画」（以下、「本計画」という。）は～わたしたちの千葉市をより豊かなものとしていくための <u>まちづくりの方向性</u> を明らかにする計画です。	千葉市基本構想では「都市づくり」という言葉が使われているが、どのように使い分けされているのか。 「まちづくり」の方が一般的とは思うが、計画体系の整合性として問題はないのか。 政令市である大都市千葉市の基本計画の特色として、「都市づくり」を使うことも考えられる。 「都市づくり」＝「まちづくり」＋「まちづくり」＋「まちづくり」＋「まちづくり」＋…		中島委員	本計画における「まちづくり」の意味は、基本構想における「都市づくり」と同じですが、よりなじみのある用語である「まちづくり」を用いています。	－	無
2	当日意見	第1章	1		3	全体		次の基本計画と現行の基本計画の関係性について、分かりにくい部分がある。 通常、計画の策定においては、過去の計画を評価し、踏まえるものと思われるため、現行の基本計画の評価を次の基本計画に反映させ、つながりを持たせることが必要ではないか。		菊地委員	これまでに実施した現行の基本計画についての政策評価を踏まえ、原案の記述を検討します。 なお、現行の基本計画の政策評価は、実施計画の期間ごとに実施しており、平成30年度から令和2年度までの第3次実施計画の期間については、来年度にかけて政策評価を実施します。	【P3 第1章 1 1パラ】 本市はこれまで、 <u>人口減少と少子高齢化の進展をはじめとするまちづくりの重要な課題に的確に対応するべく</u> 、「わたしから！未来へつなぐ まちづくり」をコンセプトとする千葉市新基本計画の下、様々な取組みを進めてきました。 また、千葉市まち・ひと・しごと～展開してきました。 <u>これらの取組みにより、子育て・教育環境の充実、地域包括ケアシステムの構築・強化、地域経済の活性化などで成果を挙げてきたところですが</u> 、速くない将来には本市の人口も減少局面に突入することが見込まれており、 <u>これまでの計画・戦略を引き継ぐ</u> 本計画は将来の本格的な人口減少期に向けた「準備段階」としての性格を有する計画となります。	あり
3	当日意見	第1章	1		3	全体		SDGsに触れる以上、「誰一人残さない」というメッセージを冒頭で記載すべきではないか。 また、多様な主体との連携を掲げる以上は、人々の暮らしや価値観が多様化していることをしっかりと認識していかないと、全体として良い計画にならないと感じるため、記述を検討いただきたい。		浅野委員	ご意見のとおり、個人のライフスタイルや価値観の変化も考慮すべき重要な社会変化となりますので、記述を検討します。	【P1 第1章 1 3パラ】 そのため、少子高齢化の進行とこれに伴う～新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえた「ポストコロナ」に向けた新しい行動様式の浸透などの <u>個人の価値観やライフスタイルに関する変化や</u> 、様々な社会経済情勢の変化を的確に捉えるとともに、より長期的な将来を展望しながら、本市ならではのまちづくりの方向性を定めることが重要です。 【P4 第1章 2（2）3パラ】 このような顕在化してくる諸課題に対応し、官民連携のもと、将来にわたり持続可能な都市経営を図るため、計画期間を超えた2040年頃を展望した社会変化、将来リスク、SDGsの「 <u>誰一人取り残さない</u> 」といった視点等を踏まえ、この10年間に重点的に推進する政策及び分野目標を位置付けました。	あり
4	事前意見	第1章	1		3	2パラ4行目	また、千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略～こうした計画・戦略を引き継ぐこの計画は将来の本格的な人口減少期に向けた「準備段階」としての性格を有する計画となります。	冒頭で、『この「千葉市基本計画」（以下、「本計画」という。』と定義しているため、「本計画」の方が適切ではないか。 ※当該箇所以外にも、数か所同様の記述あり。	表記の一致	中島委員	ご意見のとおり修正します。	「この計画」及び「千葉市基本計画」の意で用いている文言を、「本計画」に統一します。 「この計画」：p3、4、5、6、13 「基本計画」：p7、43、65	あり
5	当日意見	第1章	1		3	5パラ2行目	本市のこれからの100年を見据えた次なるステージの幕開け期として、市民はもとより、 <u>団体・企業・大学等・行政など多様な主体が一層連携し、みんなが共有できる未来への指針となるよう</u> 、この計画を策定します。	これからの100年を見据えた次なるステージへの幕開け期の計画という位置付けは重要である。 表記について、多様な主体と方向性を共有し、連携するという表現にすべき。		岩崎委員	ご意見のとおり修正します。	【P3 第1章 1 6パラ】 本市のこれからの100年を見据えた次なるステージの幕開け期として、市民はもとより、団体・企業・大学等・行政など多様な主体が <u>みんなで見据す未来の千葉市の姿を共有し、その実現に向け</u> 、一層連携できるよう、この計画を策定します。	あり
6	事前意見	第1章	2	1	4	1パラ1行目	都市は、自然や歴史を背景に、様々な「いろ」や「かお」などの特性を持っています。	以下のとおり修正してはどうか。 「都市は、自然や歴史を背景に、様々な特性を持っています。」	『様々な「いろ」や「かお」』を読み取れる記述がないため、現在の記述は抽象的で、むしろ多様性に関しての含みや誤解を招く恐れがある。 もしくは、千葉市は他の都市以上に様々な「いろ」や「かお」などの特性を持っていること示す記述が必要ではないか。	若狭委員	当該箇所については、どのような都市も、それぞれが歴史の中で培った地域資源等を背景に、独自性を持っていることを、一般的な都市の姿として表現したものであるため、現行のままとします。	－	無
7	事前意見	第1章	2	1	4	1パラ3行目	～100年先の将来にわたり、人々から選ばれ、愛される、活力のある豊かな都市であり続けるためには、 <u>こうした本市ならではの特性や個性を活かしたまちづくりが重要</u> です。	「こうした」を受ける例示がないため、削除してはどうか。		中島委員	ご意見のとおり修正します。	【P4 第1章 2（1）2パラ】 100年先の将来にわたり、人々から選ばれ、愛される、活力のある豊かな都市であり続けるためには、本市ならではの特性や個性を活かしたまちづくりが重要です。	あり
8	当日意見	第1章	2	3	5	全体		ワールドカフェや千葉市未来研究所などの取組みに参加させていただき、一般市民や千葉市の方と語り合う機会があった。 人数としては50人、100人くらいであったが、これをもっと広げている、そこで出てきた思いや情報に気軽にアクセスできる環境があると、市民も常に千葉市の動向を知ることができるようになるのではないかと常々思っている。 そのため、この計画にもそういったテーマを設定いただきたい。		若狭委員	市民参加については、現計画においても「まちづくりを支える力」と位置づけておりましたが、今後はまちづくりの推進力として、より一層、関わっていただくことが重要であると考え、「まちづくりを進める力」と発展させて第4章5に位置付けたところです。 ご意見にある、市民への情報提供を含めた、具体的な取組みについては、実施計画等において検討してまいります。	－	無
9	事前意見	第1章	2	4	5	1パラ1行目	この計画は、 <u>人口減少の克服と地域の活性化を目指す</u> ～	「人口減少の克服」を「人口減少に抱える課題の克服」に修正する。	人口減少は克服できないため。 また、克服しようとする記載もない。	若狭委員	人口減少の「克服」とは、人口減少に起因する諸課題への対応を含む表現として用いておりますので、ご意見を踏まえ、趣旨が伝わるよう「人口減少に伴う課題の克服」に修正します。	【P4 第1章 2（4）1パラ】 本計画は、人口減少に <u>伴う課題</u> の克服と地域の活性化を目指す、本市の地方創生の理念と目的を同じくするものです。	あり

第 1 回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	意見の理由	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
10	事前意見	第1章	3	1	6	3パラ1行目	また、市政の特定の課題等に対応するために各部門が策定する個別部門計画とも連携し、整合を図ります。	「個別部門計画とも連携し、整合性を図ります」という記述は、将来の各個別部門計画の内容を拘束することになるため、もう少し具体的にイメージできる内容がよいのではないか。		菊地委員	ご意見を踏まえ、本基本計画で示すまちづくりの方向性に基づき、個別部門計画を策定していくことが伝わるよう、より具体的な記述を検討します。	【P6 第1章 3 （1） 3パラ】 また、市政の特定の課題等への対応を目的とする各個別部門計画の策定にあたっては、上位計画である本計画が掲げる基本方針や分野ごとの目標等を踏まえるとともに、施策の展開における連携、整合を図ります。	あり
11	当日意見	第2章	2	2	12	(12) (13)		千葉市の歩みについて、12番と13番が時代的に逆になっているので、修正いただきたい。		近藤委員	千葉市が政令指定都市に移行した年月日は、（13）3行目後半の記述のとおり、平成4年（1992年）4月1日ですので、暮張新都心の誕生と政令指定都市への移行では、後者の方が後になります。 しかし、（13）冒頭の年月日の記載により時系列が分かりにくいことから、修正します。	【P12 第2章 2 （13）】 政令指定都市調査室を設置し、以後、政令指定都市移行への準備を進めました。そして、平成3年（1991年）10月18日、千葉市を政令指定都市に指定する政令が公布され、平成4年（1992年）年4月1日、政令指定都市としての千葉市が誕生し、大都市として新たな歩みを始めました。	あり
12	当日意見	第2章	3		14	全体		基本計画での目玉を明確にした方がよい。 原案は良くまとまっているが、逆に目玉的なもの、尖った部分がないように思える。 例えば、国家戦略特区の使い方についても、単なるAIやモバイル、自動運転の実験の場とするのか、もっと産業部分につなげ、雇用の場、新産業として位置付けるのかといった、尖った部分を盛り込む必要があるのではないか。		松永委員	本計画では、第4章において、分野横断的かつ重点的に取り組むべき4つの戦略的視点を位置付けており、それに基づく具体的な施策を実施計画等に位置づけてまいります。	-	無
13	当日意見	第2章	3		14	全体		この計画の中で、あまり教育について語られている部分がないと感じるため、千葉市の特性の中に教育の面も何か取り入れていただきたい。 若い方々がその教育を受けるために集まるということにつなげるためにも、非常に重要なことではないか。 また、そこから産業や定住につながる部分もあるのではないかと感じる。		鎌木委員	教育については、今後の社会変化に対応できる人材を育成することが重要と考えており、第3章2（1）④年少人口の減少において、課題認識を示したうえで、分野別計画4において、自ら未来を切り開くことができる人材の育成について位置づけております。 具体的な取組みについては、実施計画等において検討してまいります。	-	無
14	当日意見	第2章	3	1	14	全体		他市と比べる際に、例えば、さいたま市と比べると、海に面しているということが非常に有利であり、海があることで大きな産業が根付き、自然環境は海の恩恵を受けている。 また、横浜市にも海があるが、海浜がなく、ほとんど埋め立てられて工場地帯になっている。 海辺があるのが千葉の特徴と思っているため、ぜひ、そういった自然という海の強みをもう少し強調していただきたい。		轟委員	海辺・浜辺については、市としても重要な資源として認識しており、千葉市の都市アイデンティティを形成する地域資源の1つとして海辺を位置付けているところで 第4章「目指すべき都市構造」に浜辺・海辺を位置付けておりますが、ご意見を踏まえ、更なる記述について検討します。	【P14 第2章 3 （1） 2パラ】 東京湾の豊かな恵みをもたらした海辺には現在も、3つの浜（いなげの浜、検見川の浜、幕張の浜）に日本最長の人工海浜によるビーチが連なり、東京圏において貴重な浜辺を身近に感じることのできる空間が広がるとともに、内陸部には緑豊かな里山、谷津田や肥沃な農地を有し、花見川や都川といった河川が内陸部と海辺をつないでいます。 ※第4章2（2）への追記も検討します。	あり
15	当日意見	第2章	3		14	全体		千葉市の特性について、空間的な特徴を明記すると、反面、市民の顔が見えてこない部分があり、もったいないと感じる。 千葉市は、大学も多く、国際的な面から見ても、色々な特徴を持った方々がいらっやと思う。 市民の方も含めてこの計画を作るといことであれば、5つのまちの宝という特徴に、市民の多様性というところで、顔が見える形にしていきたいと感じる。		林委員	計画の中で、これまでの市民主体の活動の成果が読み取れるような表現の追加を検討します。	【P4 第1章 2 （3） 2パラ】 これまでの取組みにより、多くの市民、団体が地域に根差した活動を展開していることから、この計画では、行政が担ってきた様々な機能についても、多様な主体がサービス提供や課題解決の担い手としてより一層関わっていくことを目指し、「まちづくりを支える力」を「まちづくりを進める力」へとさらに発展させていくことを志向しています。 【P15 第2章 3 （4） 3パラ】 このように、～柔軟性がある懐の深い市民性が受け継がれ、本市で展開される多彩な活動の底流に息づいています。	あり
16	当日意見	第2章	3	2	14	全体		原案の中では、千葉市の県内における位置付けが明確に書かれているが、他の首都圏の傾向を見ると、首都圏の中での位置付けといった視点で書かれている。 一方、千葉市の場合は首都圏の中での位置付けが明確でないため、千葉市をどう位置づけるのかが必要ではないか。 人口が減少していくかもしれないが、コロナ禍の中で千葉市へ転入してくる方がいるため、一つのチャンスになると思う。 現状は、さいたま市や横浜市の経済規模や人口規模で差が開いているが、首都圏の中での千葉市といった視点を盛り込んだ方がよいのではないか。		松永委員	ご意見のとおり、県内における本市の位置づけ同様に、より広い視点で、首都圏における千葉市の立場を明確にすることは重要ですので、記述を検討します。	【P14 第2章 3 リード文3パラ】 これらの特性は、現在のわたしたちが享受している市民共通の財産であり、また、それらの組合せが本市を東京圏の中でも稀有な存在としています。 ※P34 第3章2（2）③への追記も検討します。	あり
17	追加意見	第2章	3	2	14	全体		職住が接近したまちであることの魅力は大きく、これは防災上も有利である。 ただし、職場も家も被害を受ける可能性がある。 育児・介護と仕事の両立と、災害時対応の両方を視野に入れつつ、災害時の事業継続計画の策定をしっかりと進めてもらうよう、各企業に働きかけることも重要と感じた。		浅野委員	持続的な企業経営には災害時の事業継続の視点も重要と考え、分野別計画8-1-2に、安定的な経営維持の支援として、事業継続支援を位置づけております。 具体的な取組みについては、今後、実施計画等において検討してまいります。	-	無
18	追加意見	第2章	3	2	14	全体		育児と介護のしやすさ、高齢者や障害者、子どもも暮らしやすい街、仕事との生活のバランスのとりやすさを、より具体的に数値で把握しながら施策が進められるとよいと感じた。 既存の統計でも、保育所やデイサービスまでの距離もつかめる。		浅野委員	政策評価における客観指標や、総合戦略における基本目標・KPIなど、客観的に把握することができる指標を活用して施策を行っており、今後も引き続き、エビデンスに基づく政策立案（EBPM）の推進など、数値に基づく施策展開を行ってまいります。	-	無

第 1 回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	意見の理由	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
19	当日意見	第3章			17	全体		先が見通せない、不確実性が増す中で、どのように目標を定めるのが非常に難しい話だと思う。 どうしても計画というのは、課題に対して解決するという追従型の在り方があるが、先が見えない中では夢を追いかけけるような方法があるのではないかと思っている。		轟委員	ご意見のとおり、不確実性が増す中であるからこそ、目の前の課題解決に注力するのではなく、長期的な視点を持ちバックキャストで施策を立案する必要があると認識しておりますので、より、明確になるような表現への修正を検討します。	【P4 第1章 2 (2) 3ボツ目】 このような顕在化してくる諸課題に対応し、官民連携のもと、将来にわたり持続可能な都市経営を図るため、 <u>計画期間のさらに先まで見据えつつ、10年後に実現したい姿を描くとともに、2040年頃を展望した</u> 社会変化、将来リスク、SDGsの視点等を踏まえ、この10年間に重点的に推進する政策及び分野目標を位置付けました。	あり
20	当日意見	第3章			17	全体		効率性や生産性ばかりを追い求める政策では、教育や介護といった分野の真の価値が見えにくくなると思う。 国が豊かになったり、市が豊かになればなるほど、教員や介護士にお金をかけるべきだということに気づいていないところがある。担い手への報酬を負担と考えるのではなくて、国や市が豊かになった証しということで、生産性や効率性ばかりを追いかけていくのではなくて、教育改革を政策として掲げていくと、すごく豊かな市の計画になるのではないか。		下河原委員	教育や福祉の分野において、その制度を下支えする担い手の重要性は認識しておりますので、第4章2の戦略的視点において記述を検討してまいります。	※第4章2への記載を検討します。	あり
21	当日意見	第3章			17	全体		長期的な計画であるため、いつ誰が見ても分かるような標語をもっとアピールしてはどうか。 例えば、「誰もが楽しく暮らせるまちづくり」といったような誰もが一言で分かるような標語づくりも真剣に考えていただきたい。		和田委員	ご意見のとおりみんなが共有できる計画とするために、分かりやすいビジョンが必要と認識しております。	－	無
22	当日意見	第3章			17			重要な社会変化に関して、不確実性が非常に高まっていることは非常に大きいと思っている。 千葉市だけでなく、国の議論でもここが一番大きな問題で、いままでの右肩上がりは閉塞感があり、これからはアジャイルで行かないといけないとの報告書も出ている。 これから先、計画して着実にこなしていくことは分野によって必要だと思うが、それ以外ではこれから変わっていくことを前提にやっていくことも大切だと思う。		森川委員	ご意見のとおり、不確実性が高まる中においては、中長期的な将来を見据えながらも、機動的に直近の社会変化に対応していく必要があると考えますので、記述を検討します。	【P3 第1章 1 3パラ】 ～様々な社会経済情勢の変化を的確に捉えるとともに、 <u>不確実性が高まる中</u> 、より長期的な将来を展望しながら、～ 【第3章冒頭】 <u>本市を取り巻く環境が急速に変化し、不確実性が高まる中、中長期的な社会変化を踏まえ施策を検討するとともに、社会変化に応じ柔軟に取組みを見直す必要があります。</u> ここでは、本市が持つ特徴や～ ※第5章2への追記も検討します。	あり
23	当日意見	第3章	1	2	19	全体		人流の図表について、どのような層の人が転入して、どのような層の人が転出しているのかという情報も、記載してはどうか。 どのような人の動きがあるのかを分析して、計画に記載することで、個別部門計画を策定するときの議論に役立つのではないか。		菊地委員	ご意見のとおり、転出入について、年齢や世帯構成、転出先・転入元などを詳細に分析することは、より効果的な施策の立案に繋がりますので、分析の結果を踏まえ、計画への記述を検討してまいります。	－	無
24	事前意見 +当日意見	第3章	1	2	20	全体		市内経済を含めての活動を考えると、昼間人口の増加が重要と考えるが、産業、商業など働く場の誘致の他に、何か検討している施策はあるか。 (実現可能性を問わなければ、「週4日労働推進都市」、「ダブルワーク減税」など。) また、昼夜間人口比率の目標値を設定しているのか。 計画の中で数値的目標が出てこないが、昼夜人口比率を100%にする目標を設定することで、首都圏として尖った話になる。 加えて、人口問題に関しても、人口減少に対して、どこまで増やすのか、どこを解決しなければならないのかという目標値が必要ではないか。 実施計画ではなく、10年、20年の中でも定義しておくべき。		中島委員	都心の魅力向上、ネットワークの整備などの都市基盤の充実や観光・MICEの推進や文化芸術・スポーツ振興などの取組みは、昼間人口の増加に寄与するものと考えています。 なお、基本計画においては数値目標は定めていませんが、実施計画の期間ごとに行う政策評価は、客観指標や市民の生活実感を分析し、評価を行っています。この指標を設定する際に、基本計画の計画期間10年を意識した設定を行ってまいります。	－	無
25	事前意見	第3章	1	3	22	■産業構造 3ボツ目		・全体として、 <u>産業構造のバランスがとれている</u> ことが特徴的。 産業構造について、何か特化する想定はあるか。		中島委員	特定の産業に特化することは想定していませんが、本市の産業集積や流通拠点としての立地特性を活かした企業誘致等に取り組んでおり、引き続き状況の変化に対応しつつ推進してまいります。	－	無
26	事前意見	第3章	1	3	22	全体		近年、多くの市民もRESASを用いた地域経済循環図や循環率に触れるようになっていたため、人の流れのみならず、経済面での拠点性や自立性を示す必要はないか。		菊地委員	ご意見を踏まえ、地域経済循環図や地域経済循環率を用いた本市の拠点性や自立性の分析等を検討してまいります。	※地域経済循環図等を用いた分析等を追加します。	あり
27	当日意見	第3章	2	1	24	全体		人口について、定住人口が主に書かれているが、現在はコロナ禍でインバウンドが大変落ち込んでいるが、今後、人口減少の中では、インバウンドといわれる、いわゆる交流人口をしっかりと受け入れていくという戦略が必要ではないか。 そのため、是非、交流人口、特にインバウンドのデータを取り入れて示していただきたいと思っている。		轟委員	ご意見のとおり、インバウンドに関する記述を追記します。 また、第4章(2)の戦略的視点において、「交流人口」をキーワードとして追記することを、併せて検討します。	【P24 第3章 2 (1) ①】 ・ <u>加えて、インバウンドを含めた交流人口の増加により、地域経済の活性化を図ることも必要です。</u> ※第4章2(2)への追記も検討します。	あり
28	追加意見	第3章	2	1	24	全体		24から31ページの人口の変化について、人口変化だけでなく世帯構成の変化にも注目すべき。 28ページに高齢者の孤立死の記述があるが、高齢者も含めて「1人世帯」の増加、孤独、孤立が今後10年間で大きな社会課題となると考えられる。 千葉市は現在は「親と子」の3、4人世帯が多いと思われるが、全国的には2人世帯の次に多いのが1人世帯であり、1人世帯が最も高い割合になるのは時間の問題である。 世帯構成の変化のグラフや孤立への対応について、言及できないか。		秋田委員	ご意見のとおり、単身高齢者世帯の増加に加え、若年層の単身世帯の増加なども、今後の施策立案に影響のある重要な社会変化と考えますので、世帯構成の変化も考慮しつつ、生じる課題への対応について記載を検討します。	※世帯構成の今後の変化を推計したうえ、課題への対応等を追記するよう検討します。	あり

第 1 回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	意見の理由	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
29	当日意見	第3章	2	1	24	①総人口の減少		人口減少により、コンパクトへの対応という方向性が必要になるが、千葉市だけで考えてもいけないと考えている。 周辺の自治体から移住者や従事者を集めるのでは、周辺が衰退し、いずれ千葉市も衰退に向かう懸念がある。 そのため、千葉市は周辺自治体の中心的な都市であるという認識は持っていただきたいため、もう少し強調していただきたい。 これを踏まえて、周辺も含めてコンパクトとネットワークをしっかりとしていくという政策も必要になると思っている。		轟委員	第4章3 目指すべき都市構造においては、周辺都市を含む圏域において拠点としての役割を果たすとともに、周辺都市等との広域的な連携・交流を促進するネットワークを構築すると記載しています。 これを踏まえて、実施計画等において具体的取組みを検討してまいります。		無
30	事前意見	第3章	2	1	24	①総人口の減少	人口密度の維持	「人口密度の最適化」もしくは「人口密度のコントロール」と修正すべきではないか。	想定される変化（人口減少）及び千葉市の面積が縮小するわけではないため、人口密度の維持は不可能であることから、「維持」は不適當ではないか。	若狭委員	ここである「人口密度の維持」は、現状の人口密度を維持するものではなく、都市づくりを進めるうえで、生活サービス機能等が確保される適切な密度を維持することを目指しています。 そのため、「人口密度の維持」は現状どおりとしますが、上記の内容が明確となるよう、説明を追記します。	【P24 第3章 2 （1） ① 5ボツ目】 ・適切な土地利用誘導や空き家・空き地の有効利用等により、 <u>居住を促進する区域における</u> 人口密度を維持しつつ～	あり
31	事前意見	第3章	2	1	24	①総人口の減少	人口密度の維持	人口の維持ではなく人口密度の維持としているのは、いわゆるコンパクトシティ化を想定しているためか。 また、人口の目標（〇以上〇以下）は計算できているのか。 また、区によっては豊かさのために、敷地面積の下限を制限することも検討してはどうか。		中島委員	本市では、第4章「3 目指すべき都市構造」に記載のとおり、全市域で本市の礎である豊かな緑と水辺と共生しつつ、多様な経済活動や人々の暮らしが地域にあった生活サービス機能や最適化された公共交通サービスなどに支えられ活発に営まれることで、人口減少や少子高齢化が進展しても安心して暮らし続けられる、「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現を目指しています。 人口については、自然体の人口推計を上回る人口を維持できるように取り組んでおりますが、ご意見を踏まえ、人口フレームの設定について、検討してまいります。 また、敷地面積の下限設定については、地区計画や建築協定により最低敷地面積を定めることができ、千葉市においても活用されており、地域の実情に応じて引き続き運用してまいります。		無
32	当日意見	第3章	2	1	26	全体		外国人にもっと政治に参加していただくことや、外国ルーツの小学校、中学校の生徒への学習支援などが盛り込まれているといいなと感じる。		角田委員	戦略的視点には、多様性を活かしたインクルーシブなまちづくりを位置づけ、また、分野別計画P32に、学校生活支援の充実の主な取組みとして「外国人児童などの支援体制の充実」を挙げております。 具体的な取組みについては、実施計画等において検討してまいります。		無
33	当日意見	第3章	2	1	26	全体		重要な社会変化の1つに、国際化を追加すべきではないか。		近藤委員	人・モノの国際的な移動やグローバルサプライチェーンの拡大、SNS等を通じた国境を超えたコミュニケーションの普及など、国際化は既に相当進展しており、今後の重要な社会変化としては位置づけませんが、戦略的視点には「世界とつながる多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり」を位置付けており、国籍を含む多様性を活かしたまちづくりを進めたいと考えております。		無
34	当日意見	第3章	2	1	26	①総人口の減少		外国人の対応について、これから人口減少に入っていくのはどこの市町村でも避けられない中で、今後の改革によってはますます、国内の中にも外国人が増えていくことが考えられる。 千葉市の特徴として基本計画に国際都市としての側面を掲げている中で、外国籍を持っている方々から千葉市が本当に選ばれる都市になるために、全国に住んでいる外国人の方々に、千葉市で生活してもらうことについて真剣に考えてもらうことを考えてもいいのではないか。		林委員	ご意見のとおり、総人口が減る中で外国人市民の重要性は増すものと認識しており、第4章2における戦略的視点（3）においてインクルーシブなまちづくり位置付けています。 ご意見を踏まえ、実施計画等において具体的取組みを検討してまいります。		無
35	事前意見	第3章	2	1	26	2ボツ目 3行目	・人口減少下においても～多様性を活かしたインクルーシブなまちづくりの推進や働き方改革、学び直しの充実など～	現計画では、外国語版の計画を冊子ではなくWeb上で公表しているが、インクルーシブなまちづくりの視点、あるいはIRや外国からの投資、潜在的な外国人市民に向けての本計画内容の発信方法について、考え方を伺いたい。 関連して、27ページ下図の白枠内の数字（2017年では4.8%）は、外国人市民比率ということでしょうか。		菊地委員	次の基本計画の発信方法については、現行の基本計画同様、複数の言語に翻訳したものをWebに公開する方向で検討しています。 また、27ページの下図の数字は、外国人市民の高齢化率であり、市の全人口に占める外国人市民の割合は、2021年3月末時点で、2.9%となっています。 なお、本表を含め、図表については、策定に向けて最新の数字に更新する予定です。		無
36	事前意見	第3章	2	1	26	全体		地域で暮らす中で、日本語以外への言語対応をどのように考え、対応を予定しているのか。 2021年8月末時点で千葉市の人口の3%程度を外国籍の人が占めていることを考えると、その人たちへの対応も重要なポイントと考える。		林委員	オリ・パラ開催都市として、公共交通機関や案内表示等の多言語対応を推進するほか、千葉市国際交流協会が外国人総合相談窓口として、外国語相談員や通訳ボランティア等が電話・メール・窓口での対応により、多言語による各種相談を行っております。 また、外国人が医療機関や行政窓口など、日常生活で困らないよう、日本語教育・日本語学習支援を推進するとともに、外国人にも分かりやすく伝えるための「やさしい日本語」の町内自治会など地域への普及促進に努めてまいります。		無

第 1 回千葉市新基本計画審議会における意見への対応の方向性

No.	分類	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	意見の理由	委員	対応の方向性	原案の修正案（たたき台）	総論の修正有無
37	事前意見	第3章	2	1	26	全体		千葉市は東京にも近く、生活環境も豊かな点から、今以上に外国籍の人に居住環境をアピールすることもあるのではないかと。		林委員	人口維持・増加の取組みの一つとして、外国人市民の増加も重要であると認識しており、具体の取組みについては、実施計画等において検討してまいります。 なお、これまで「千葉市多文化共生のまちづくり推進指針（H29.12月策定）」の方向性に基づき各種取組みを行ってまいりましたが、指針策定から4年が経過したため、外国人市民の現状や課題、ニーズの把握を目的とした外国人市民アンケートを今年度に行い、その結果を反映した具体的な行動計画の策定をR4年度に検討しています。	-	無
38	事前意見	第3章	2	1	26	全体		外国人市民の地域社会活動への参画支援などが盛り込まれているが、中長期計画に外国籍の方々（非日本語話者）の意見を反映する予定はあるのか。 宗教的価値観なども含め、様々な言語への対応は不可欠に思える。		林委員	これまで、計画の策定にあたり外国人市民も含め、広く市民を対象とした市民参加の取組みを行っております。 なお、所管局においても外国人市民との意見交換を実施しているところであり、今後の具体的な施策の検討に役立ててまいります。	-	無
39	事前意見	第3章	2	1	26	②生産年齢人口の減少	多様な市民等主体が、それぞれの特性や個性を活かし、活躍できる環境整備生産性の向上や、テレワークなど多様で柔軟な働き方の推進	具体的な取組みは分野別計画で議論されるのか。 より具体的に記載する場合、どのような取組みを想定しているのか。		中島委員	ご認識のとおり、具体的な取組みについては分野別計画においてご議論いただくほか、実施計画等において検討していく予定です。 なお、想定している取組みの例として、分野別計画「5地域社会」の政策2や「8 地域経済」の政策1を想定しております。	-	無
40	事前意見	第3章	2	3	32	①地球温暖化による影響 3ポツ目	・日本政府による、いわゆる2050年カーボンニュートラル 宣言を踏まえ、将来的な地球温暖化の緩和を図るため、SDGsや温室効果ガスや廃棄物量の排出ゼロを目指す（ゼロエミッション）などの観点から、危機意識の共有と一人ひとりの意識・行動変容を促し、持続可能な社会の実現に向け取り組むことが重要です。	「再生可能エネルギーや省エネルギー等の脱炭素化投資を進めるとともに、」という記述を「危機意識の共有と一人ひとりの意識・行動変容を促し、」の前に追加すべき。	2050年脱炭素化は、一人ひとりの意識・行動変容で実現できるものではない。 また、「まちづくりの総合8分野」p7において、 ・再生可能エネルギー・省エネルギー等の普及促進(脱炭素化投資等の促進など) ・広域連携による再生可能エネルギーの調達 ・自然災害や健康被害などの影響へ備える適応策の推進 ・気候変動に対する行動変容の促進 とバランス良く対策が掲げられているため、追記すべき。	倉阪委員	ご意見のとおり修正します。	【P32 第3章 2（2）① 3ポツ目】 ～SDGsや温室効果ガスや廃棄物量の排出ゼロを目指す（ゼロエミッション）などの観点から、 <u>省エネルギーや再生可能エネルギー等の脱炭素化投資を進めるとともに</u> 、危機意識の共有と一人ひとりの意識・行動変容を促し、持続可能な社会の実現に向け取り組むことが重要です。	あり
41	事前意見	第3章	2	3	35	全体		千葉市独自の取組みが伝わる表現にすべきではないかと。	一般的な内容となっており、「千葉市らしさ」が伝わりにくいと感じる。 例えば、千葉市ならではの課題を挙げるなど、抽象的な内容を千葉市の実情に即した内容にできないかと。	渡邊委員	第3章2の「2040年を展望した重要な社会変化」については、全国的に想定される変化を記載しておりますが、同様の変化が本市においても生じると認識しております。 しかし、ご意見のとおり本市に生じる課題等を記載することで、「千葉市ならではの」計画として読み手に伝わると思われるため、記述を検討します。	【P32 第3章 2（2）① 4ぼつ目】 ・同時に、 <u>令和元年の台風・大雨により次々と被災し甚大な被害を受けた経験を教訓として活かし</u> 、風水害の発生に備え、ソフト・ハード両面からの災害に強いまちづくりの推進が不可欠です。 【P33 第3章 2（2）② 3ぼつ目】 ・そのため、平時から市民一人ひとりが防災・減災の観点から備えを進めるとともに、 <u>液状化のしやすさなど地域特性を踏まえたうえで</u> 、大規模地震が発生しても機能不全に陥らない、迅速な復旧・復興が可能な地域社会づくり、まちづくりが必要です。	あり
42	当日意見	第3章	2	3	35	全体		生産年齢人口の減少について、その対応としてITを活用することで影響が生じないよう進めていくと思うが、すべてをこれで補うのではなく、今のうちから生産年齢人口を維持していくような政策、つまり、昼間に働ける場所を活性化するような新たな事業誘致というところをもう少し全面に出してはどうか。 雇用の増大とその人たちを維持していくような政策が記載されていると、非常にありがたいと感じる。 特に千葉市は、県庁所在市で、54%以上の市民が市内で働いていることがあるので、そこへ生産性を向上することにより、人口増加につながるのではないかと考えている。	生産年齢人口の減少に対し、テクノロジーだけでなく、企業誘致など雇用を創出する施策を前面に出すべき。	石河委員	雇用の需給のギャップの解消の観点から、テクノロジーや多様な人材の活用を位置づけておりますが、ご意見のとおり、企業誘致などにより、市内に魅力的な働く場を増やしていくことにより、生産年齢人口の流入を促すことも有効な手段だと考えますので、分野別計画8における記載の仕方を検討するとともに、具体的な取組みについては実施計画等において検討してまいります。	-	無
43	事前意見+当日意見	第3章	2	4	37	全体		37、38頁のSDGsの内容について、どの自治体の基本計画にも当てはまる、一般的な内容になっていると感じた。 具体的な施策を取り上げ、それがSDGsのどの目標と対応関係にあるかを明示してはどうか。 例) 災害に強い安全・安心なまちづくり→目標3・目標11・目標13に対応 また、SDGsの目標と施策の対応一覧表などを掲載することで、より分かりやすくなるかと考える。	一般的なSDGsの記載となっており、「千葉市らしさ」が伝わりにくいと感じる。 千葉市の具体的な施策を取り上げつつ、それとSDGs目標との対応関係を示すことができれば、千葉市独自のSDGsへの取り組みとして伝わりやすいのではないかと。	渡邊委員	分野別計画において、各政策とSDGsの目標との関係を示すことを検討しているため、各部会においてお示しし、ご議論いただきたいと思います。 また、戦略的視点とSDGsの対応関係については明示しておりませんので、ご意見を踏まえ、対応関係を示すことを含め、記載方法を検討してまいります。	戦略的視点とSDGsの目標との対応関係については、現時点で以下のとおり整理しております。 （1）100年先に引き継ぐ 持続可能なまちづくり ⇒ゴール1、2、3、6、7、11、12、13、14 （2）ゆとりを生み・活かす 創造的なまちづくり ⇒ゴール2、4、8、9、12 （3）世界とつながる 多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり ⇒ゴール1、4、5、8、10、11、16、17 （4）都市機能の集積を活かした 地域経済・社会の活性化 ⇒ゴール2、4、8、9、11	あり
44	事前意見	第3章	2	4	37	■対応すべき課題	SDGsの達成には、行政を含む多様なステークスホルダーの連携・協力が必要	施策について、SDGsのマークを付けることと、ターゲットに基づいた評価をしてはどうか。		中島委員	分野別計画において、各政策とSDGsの目標との関係を示すことを検討しており、各部会においてお示ししますので、ご議論いただきたいと思います。 また、SDGsのターゲットに基づいた政策評価については、第5章に記載している政策評価を実施する際に検討します。	-	無